

中條耕二君 韓国の金総領を心から歓迎します。私も先週旧正月前に行って来ました。益々発展している「ソール」「ボハン」に寄って来ました。カムサンミダーありがとうございます。

平松利朗君 金領事を心より歓迎し、韓日友好のご努力に敬意を表します。

目黒宣行君 日曜日、三条市民スキー大会に参加してきました。子供達は入賞しましたが、私は完走はしたものの順位は不明です。いずれにしろ大変楽しい1日でした。

山口龍二君 先週は無断欠勤申し訳ありませんでした。おわびのしるしです。

加藤英男君 金領事の卓話に期待して、／

江口悟君 本日の卓話に期待して。

今井克義君 キム・ヒョントク韓国領事卓話ありがとうございます。外山さん、お礼申し上げます。

外山晴一君 金賢徳領事の卓話に。

馬場直次郎君 急用あって途中で帰らせてもらいます。

山本充君 ミュージックキャンプを楽しみに。

米山忠俊君 金賢徳領事先生の卓話を記念して。

卓 話： 「私のニッポン感じたまま」 駐新潟大韓民国総領事官 金賢徳殿



皆さん今日は。私は駐新潟大韓民国総領事館の金賢徳（キム ヒョントク）領事です。本日は潤いのある金物産業都市、そして、ハイテクを目差す産業都市三条に参り、また、三条北ロータリークラブの皆さんにお会いしまして本当にうれしく思っております。こんな立派な席でお話しが出来ます事は大変に光栄と存じます。また、本日は招待して下さった外山さんには大変お世話になっており感謝申し上げます。まず、話に入る前に講演の経験も少なく、日本語がうまく話せず未熟の点、おわび申し上げます。題目を選ぶにあたり、政治的、国際的な事より個人的な話を気楽にした方が良いのではないかとしました。今、国内外で一番関心を集めている問題は湾岸戦争でございますが、私自身戦争の専門家でないのでマスコミを通じて知る限りですので、この点は省略させていただきます。三条は中東地域と少しばかりかわり合いがあると聞いております。しかし、あえて一言、言わせてもらおうと日本のマスコミは本当に公正で客観的に物事を伝えていると思いますが、その中でも産経新聞の論評の中に多国籍軍に対しての評価、また日本の役割に対するはっきりとした主張に対して共感をいだいております。もう一つ日本国民が感心を持っていることは北朝鮮と日本との国交問題だと思います。この基本的な考えは、日本の戦後処理の重要な一つだと思います。日本と北朝鮮の正常な関係が北朝鮮の孤立主義から脱却して国際社会に引っぱり出してその事によって、東北アジアの緊張緩和に寄与し、還日本

海、北朝鮮、韓国、中国、ソ連、モンゴルなどの地域の交流、活性化に寄与する事を期待しております。しかし、もしこういう関係正常化が万一北朝鮮の現在の孤立的、閉鎖的社会体制を強化し、または、対話が進んでいる南北対話に支障があってはならないと思います。日本が北朝鮮と国交樹立の問題を進めて行く中で、関係諸国と協調して円満な解決を急がないで進めて欲しいと思います。湾岸戦争での日本と北朝鮮との関係正常化の問題は、自分の外交上の重要な問題であり、また国際社会から関心をひいている問題でございますが、今進行中でもありますし私韓国政府の公務員として政府の見解を発言する訳にはいきません。現在、外国に在るイラクの大使も同じ事が言えます。客観的に見て、クウェートという国家を侵略した事は悪いと思います。でもイラクの外交官は自分の本国がやった事ですから、これは悪いとは言えません。内心では、これは少しやり過ぎたと思っても、やはり本国の立場を代弁するしかないと思います。私は東京のイラク大使の話も何度も聞きましたが、やはりその立場を理解して共感できます。韓国にしても1986～1987年以後かなり民主化が進みましたが、それ以前はやはり「朴政権」とか前政権時代軍事政権の下で、いろんな事があったと思います。その時も韓国の外交官も、やはり本国の方針とか本国のやり方を代弁して弁護するしか出来ませんし、うまく弁護できるのが良い外交官だと思います。これからは、これまで日本とかかわりあった私がいろいろ自由に考えた事、感じた事、それに日本と韓国との事について気楽に話してみたいと思います。1978年韓国の外務省に入って、1980年日本担当課に入りましたので、日本語を勉強しました。先程質問がありましたが大使は一国の全権を代表してその権利を行使出来る人で、正式の名前は全権特命大使です。大使は大使館の中で領事・政務・貿易・文化 etc いろんな仕事をしています。その中でビザ、パスポート、戸籍 etc の発行の仕事は大使館はなかなか出来ませんので、各地域に領事館をもうけてその仕事をするために勤務しているのが領事でございます。東京に韓国の大使館がありまして、北から札幌、仙台、新潟、横浜、大阪、名古屋、神戸、下関、福岡それに那覇総領事館がございます。この様に総領事館は日本が一番多く、次にアメリカでございます。1981年8月に沖縄に6か月位務めて下関に1982年に参りました。それから1983年5月に本国に戻りました。3年位務めたらすこし日本語が上手になりましたが、もう少し日本語が知りたいと思い、その次の年東京に行きました。東京は仕事でなく早稲田大学に研修で2年位勉強、研修に明け暮れていました。それから1988年3月に本国に戻り、次の年1989年8月に新潟に参りました。この後は北海道勤務を希望しています。日本とのかかわりは約10年位あります。その中で特にうれしかった事は、3人の子供をもうけた事です。その中の1人は下関生まれで、上の2人は娘です。領事官の仕事で一番重要なのは、在日韓国人の保護です。60万人以上の人々が現在日本に住んでおります。その人達の法的地位問題であります。指紋押捺問題をはじめ、いろいろの問題の改善がなされて来て大変うれしく思っております。在日韓国人の意識の変化とその向上にすこしおもしろいところがあるので、すこし話したいと思います。60万人以上の在日韓国人の中に現在、本国に帰りたいと思っている人は10人以下だと思います。本国に帰って暮らしたいと思う人はほとんどいないと言っても過言ではないと思います。なぜなら日本で生まれて、これまでの生活が長い訳です